

▼ GLAYについて

今月27・28日(土・日)我がホームポートである緑の島において日本を代表するロックグループ“GLAY”が函館で初めてコンサート(WOW WOWでLIVE生放送決定!)を開催することになり、函館市・商工会を挙げて開催へ向け躍起になっている。芸能筋ではこのコンサートが何事もなく成功裏に終わると次から次へと大物グループが緑の島でのコンサート開催を狙っているらしい。周りが海に囲まれているコンサート会場は日本広しと言えどもここ函館だけらしい・・・。

6月最後の週末は、小生も2日続けてのみに出かけていたが、公務員のボーナス、給料日に重ねて参院選の日程も決まり五稜郭は大賑わい。タクシーの運ちゃんも、5月の方が人出は多かったと言っていたが今月はそれどころではない、チケットの販売枚数は2日間で5万枚と言われているが、果たして2万5千人もあの緑の島に入れるだろうか?札幌ドームでおよそ4万人真駒内屋内競技場でおよそ1万2千人。なにより会場に入場できるのが1日2万5千人であり1日分のチケットしか持たない人および全くチケットを持たない人があの緑の島の周りに押しかけてくるのである、ある業界筋では延べ7万人とのこと。

また、陸だけでなく海からの訪問者も考えられるでしょう、まあこの辺は保安庁あたりが規制するかも?

コンサートの行われる2日間は緑の島だけでなく西部地区に足を運び入れたくない心境です。ちなみに小生は母親が入所している施設の納涼祭でほのぼのの予定です。

ただ、前回の理事会に於いて主催者側から出されている依頼書については全面的に「はい、そうですか」と言うわけにはいかないでしょう。

短い夏の貴重な2日間、1年前から予定を立てている方もいるでしょうし、天気塩梅では海水浴やクルージングも・・・。

しかるべきところがしかるべき説明をすべきではないでしょうか? 今ではもう遅いですが・・・。

沖縄から函館へ ヨット<マイウェイ>の航海

Vol 7

6月24日(金) 曇り後雨 橋立港

金沢市に住む松田氏と東尋坊の見物に出かける。今日は特に波が荒く岩礁にぶつかる波としぶきは迫力満点だ。こんな日は岸から見ているだけで十分である。民宿「なかむら」のご主人から昼食に招かれ、アカイカとスズキの刺身、ハタハタの煮付けを肴に昼間からビールと焼酎をよばれる。

6月26日(日) 橋立港→石川県金沢港大野

やれやれやっと出港できた。しかし真正面の風。風が徐々に強まり波も出てくる。11:30入港し、大野の船入間に入る。コインランドリー、ドラックストア、スーパーを回る。

6月27日(月) 曇り時々雨 金沢港大野

風が強まったため艇が岸壁に押し付けられギシギシいい出した。少しでも離れるようにとサイドアンカー

を打つ。初めてのことなので作業手順を紙に図解し二人で共通理解してから作業開始。戸惑ったり間違ったりするが由美子の動きと力のお陰でなんとか完了。兼六園を見学。もう少し早ければ花菖蒲が見頃だったようだ。

6月28日(火) 晴れ時々曇り 金沢港大野

シーガルネットEGSと交信する。10時頃から南西の風が強まってきた。由美子は地元のヨットマン小坂夫妻と一緒に食事と美容室へ。女は大変だね。私は電気バリカンを使ってボンズにするだけでおしまい。夕方、松田氏が氷と「芝寿し」を差し入れてくれる。「芝寿し」とは押し寿司の一種で、材料はメタマスやサバ。上品な味わいである。氷の感触も久し振りだ。彼の心遣いをありがたく思う。



6月29日(水) 曇り後晴れ 金沢港→輪島港

今日の行程は長いのだ。約60マイルである。5:00出港。猿山岬まで40マイルを機走し、その後輪島港まで帆走する。9時間かってやっと入港。入港時、風速10メートル。結構な風である。建設途中のヨット、ボート用の栈橋に舫う。町に近く風呂もあり便利な所だが漁船の引き波がもろに当たる。地元のヨットマン中尾氏、国田氏が来訪しスーパーまで同行してくれる。

6月30日(木) 晴れ 輪島港

引き波があまりにもすごいので、早朝、艇の向きを逆にする。少しは楽になったがそれほど居心地がよくなったとは言えない。輪島名物の朝市をぶらつく。素朴な店が並んでいる。函館の朝市のように観光ずれしていないのいいなあと感じる。蒸し暑くなってきた。すぐそこまで夏が来ているのだ。

7月1日(金) 曇り一時雨

輪島港→能登小木 九十九(つくも)湾

金沢で会った小坂氏が「係留場所があるから、ぜひ、九十九湾にも」と言ってくれたので、寄港予定の狼煙港を通り過ぎ珠洲岬を回り込み富山方向へ進路をとる。西寄りの風が5メートル前後吹いている。波が小さく走りやすいが今にも雨が降りそうな空模様だ。ついに降ってきた!土砂降りである。13:30 九十九湾に入る。狭い湾だ。慎重に操船する。小坂氏が待っていてくれた。小坂氏のヨット<ファーストウェーブ>(タシバ37パイロットハウス)のとなりに定置アンカーを使って槍付け。道路はあるがプライベートの道のように車は通らない。人も通らない。ここにいるのは小坂夫妻と我々二人と猫2匹だけである。泊地の周りは高さ